

静岡文化芸術大学 図書館・情報センターだより

# 新 知 大 温

Shizuoka University of Art and Culture Library News

2025.7 Vol.46

令和7年7月発行

発行所 静岡文化芸術大学 図書館・情報センター  
〒430-8533 浜松市中央区中央二丁目1番1号  
TEL(053)457-6124 FAX(053)457-6125  
<https://www.suac.ac.jp/library/>

## Contents

### ■表紙

赤蝦夷風説考 ————— ①

### ■図書館散歩

「美」なるもの ————— ②

国際文化学科 准教授  
宮崎 千穂

いくつかの本の思い出 ————— ③

デザイン学科 教授  
Jérôme Boulbès

### ■知っていますか?こんなサービス

学生購入希望(リクエスト) ————— ④

### ■図書館ニュース

静岡文化芸術大学  
デジタルコンテンツのご紹介 ————— ⑤



## 赤蝦夷風説考 工藤平助著

静岡文化芸術大学 和田文庫蔵

貴重書庫 [290.9/Ku 21]

2025年の大河ドラマ『べらぼう～篤重栄華乃夢噺～』は、江戸時代後期に活躍した出版事業者で、日本のメディア産業の礎を築いた「篤重」こと篤屋重三郎(1750-1797)の生涯を描いています。番組では、篤屋を中心に江戸時代中期に活躍した人物や、篤屋が手がけた出版物が扱われ、キーパーソンの1人として、静岡県にゆかりの深い田沼意次(1719-1788)が登場します。彼は、自らの才能と実行力で、足軽出身の出自から遠江相良藩(現在の静岡県牧之原市)の大名にまで昇りつめ、第10代将軍徳川家治の側用人から老中となりました。今回は、田沼が蝦夷地の開発に乗り出そうとしたきっかけとして注目されている図書『赤蝦夷風説考』をご紹介します。

『赤蝦夷風説考』は、江戸時代中期の医師で、学者、経世家としても活躍した工藤平助(1734-1801)が著した、日本における最初のロシア研究書です。18世紀後期にロシアの南下が進むと、ロシア軍捕虜となり脱出したハンガリーの伯爵モーリツ・ベニョフスキー(1746-1786)が、長崎のオランダ商館長宛の書簡で「ロシアには侵略の意図がある」と告げました。これを機に、北方問題への関心が高まりました。本書は、国防的立場からこれを論じています。書名の「赤蝦夷」は、ロシアもしくはカムチャツカのことです。

本書は上下2巻の構成で、下巻は天明1年(1781年)、上巻は天明3年(1783年)に成立したとみられます。上巻は、主として松前方面からの伝聞や洋学者の教示によって記述されており、ロシアが望むのは交易と考え、長崎などに港を開き蝦夷地の金銀を発掘して交易を開くことを提案しています。下巻は、1744年版の『ロシア誌』や1769年版の『地理全誌』などの蘭書に基づき、ロシアとカムチャツカの歴史と現状を述べ、ロシアの経略の歴史、カムチャツカと蝦夷地の地理を明らかにしています。

本書に啓発され、国論も高まりを見せました。天明4年(1784年)から天明6年(1786年)にかけて幕吏によって蝦夷地調査が行われ、幕府は北方対策に取り組むようになりました。

#### 参考文献:

赤蝦夷風説考. 国史大辞典編集委員会編『国史大辞典』第1巻(p.52). (吉川弘文館, 1979)  
赤蝦夷風説考, 日本大百科全書(ニッポニカ), JapanKnowledge, <https://japanknowledge.com>, (2025年6月20日参照)  
田沼意次, 日本大百科全書(ニッポニカ), JapanKnowledge, <https://japanknowledge.com>, (2025年6月20日参照)  
ベニョフスキー著; 水口志計夫, 沼田次郎編訳『ベニョフスキー航海記』(平凡社, 1970)  
NHK Webサイト『べらぼう～篤重栄華乃夢噺～』 <https://www.nhk.jp/p/berabou/> (2025年6月20日参照)



国際文化学科 准教授  
宮崎 千穂  
Miyazaki Chiho

紹介した図書

与謝野晶子訳  
『源氏物語』(上巻・下巻)  
(日本文学全集: カラー版)  
913.369/Y 85/1  
913.369/Y 85/2

『光る君へ ART BOOK  
(NHK2024年大河ドラマ)』  
913.36/N 71

大和和紀著  
『あさきゆめみし: 源氏物語』  
913.36/Y 45

吉岡幸雄著  
『「源氏物語」の色辞典』  
913.36/Y 92

吉岡幸雄原著; 吉岡更紗編著  
『「源氏物語」五十四帖の色』  
913.36/Y 92

梅原猛著  
『隠された十字架』  
(梅原猛著作集; 10)  
081.6/U 66/10

黒岩重吾著  
『天の川の太陽』  
913.6/Ku 73

井上靖著  
『額田女王』  
913.6/I 57

井上靖著  
『敦煌』  
913.6/I 57

井上靖著  
『楼蘭』  
913.6/I 57

井上靖著  
『天平の甕』  
913.6/I 57

井上靖著  
『西域小説集』  
913.6/I 57

中島敦著  
『李陵; 山月記』  
913.6/N 34

井上靖著  
『わが文学の軌跡』  
910.268/I 57

## 「美」なるもの

「美」とは何か。人は何に「美」を感じ、何を「美」と称するのでしょうか。私は「美」についての専門家ではありませんが、人間とは何かを考えるうえで「美」を考えることは重要なことではないかと思っています。図書館で触れることのできる文学作品も、「美」なるものに思いを馳せ、それに共感したり、批判したりするきっかけを提供してくれるものなのかもしれません。ここでは、ひとりの読者として私の心に残る文学作品を紹介しながら、趣味的に「図書館散歩」を試みたいと思います。

「美」なるものを考えさせてくれる書物として、いつも私の心の片隅にあるのは、『源氏物語』と井上靖（1969年ノーベル文学賞選考で候補に推薦された）の歴史小説です。私がこれらに出会ったのは小学校・中学校に通っていた頃のことですから、少年少女期に出会うものがその後の人生に与える影響の大きさを感ずります。あるいは、もしかしたら、私の生来のものが、それらの書物を選びとったのかもしれない。

『源氏物語』との出会いは、小学生の時です。その頃の夢は、本屋さんになることでした。たくさん本に囲まれて、静謐な時を過ごすことに憧れを抱いていたのでしょう。最初に手にした『源氏物語』は、学校の図書館で借りた学童用の本です。この本には内容的な省略があり、また理解が難しい部分もありましたが、華やかな宮廷世界の中に何やら重々しく厳しいものがあることを感じた覚えがあります。その時、特に印象深く感じたのは、六条御息所が斎宮に選ばれた娘とともに伊勢へと旅立つ場面でした。その後、中学生のときに、祖母が揃えていた分厚くて重量のある『日本文学全集』（河出書房新社）の中に与謝野晶子が現代語に訳した『源氏物語』を見つけて読みました。端正な文章で進められる物語を、古い本に特有の匂いとともに、懐かしく思い出します。その時のお気に入り、八の宮の三姉妹の運命が宇治を舞台として描かれる宇治の十帖でした。今振り返ってみると、当時の私は、六条御息所や宇治の大君・浮舟の生きざまに人生に対するある種の諦めのようなものを感じ、そこに心を惹かれていたように思います。

そうした人生に対する諦めのようなものを当時の私が「美」として捉えていたのかどうかはわかりませんが、一方で、その頃に触れた『源氏物語』は、2024年のNHK大河ドラマ『光る君へ』において視覚的に表現されていたような平安貴族の調度や装いを「美」として捉える機会も与えてくれたように思います（再現された平安の「美」は、『光る君へ ARTBOOK』でも堪能できます）。大和和紀の漫画『あさきゆめみし』からも、そうした画としての平安の「美」を身近に感じることができました。最近では、『源氏物語』の色を植物染めで再現しようとした吉岡幸雄の試みにも心を躍らせています。『延喜式』に示されている染色法をもとに試行錯誤のうえで再現された眼と心を潤す「美」は、吉岡幸雄『「源氏物語」の色辞典』や吉岡更紗『「源氏物語」五十四帖の色』で感じることができます。

『源氏物語』とともに、私の心に「美」のかけらを残しているのは、井上靖の歴史小説です。昭和の終わり頃から平成の初めにかけて、小中学生であった私は、当時の古代史ブームやシルクロード・ブームの影響を自然と受けていたようです。父の書棚にあった本の中から、梅原猛の『隠された十字架』や、黒岩重吾の『天の川の太陽』、井上靖の『額田女王』や『敦煌』などを手に取って読んだことを覚えています。なかでも、映画化された『敦煌』は、初めて自分の意思で映画館へ見に行った映画でした。『敦煌』は、現在の中国・甘粛省の敦煌にある莫高窟で発見された敦煌文書から着想を得た歴史小説で、井上のいわゆる「西域物」作品群の代表作です。井上の西域物から、私はいつも、氷のようにひんやりとした冷たさを感じていました。そしてそれは、不思議なことにとずっと心に残り続けています。今となって考えると、私はひんやりとした冷たさに「美」を感じていたのかもしれない。

静岡文化芸術大学の図書館には、『井上靖全集』のほか、井上の単行本も揃っています。『楼蘭』や『天平の甕』といった代表作は勿論、西域物の源泉とされる小説『漆胡褥』もお勧めです。古代中国の将校がオオカミ化する「狼災記」（田壮壮監督・オダギリジョー主演の映画『ウォーリアー&ウルフ』の原作）を中島敦『山月記』と比較しながら読むのも良いかもしれません。

最近、近現代史研究者として、井上靖に関する研究を始めました。この仕事は、私自身が生きて来た時代を振り返る作業でもあります。最も印象深い井上の表現に、自身の兵隊時代のことを語った「人のいい人間はどんな環境でも人がいいですね」（『わが文学の軌跡』）というものがあります。とても重い言葉です。井上の「美」がいかなるものであったのか、ひとつの答えを出すことができればと思っています。



デザイン学科 教授  
ブルベス・ジェローム  
Jérôme Boulbès

紹介した図書

ガブリエル・ガルシア＝マルケス著、  
鮫直訳  
『百年の孤独』  
963/G 21

イタロ・カルヴィーノ著；米川良夫訳  
『木のぼり男爵：我々の祖先』  
081/H 19/211

イタロ・カルヴィーノ著；米川良夫訳  
『マルコ・ポーロの見えない都市』  
973/C 13

大江健三郎著  
『M/Tと森のフシギの物語』  
081/D 83/1

ヴェルレエヌ [著]；鈴木信太郎譯  
『ヴェルレエヌ詩集』  
951.6/V 61

アンリ・ミショー [著]；小海永二編・訳  
『幻想旅行記：  
グランド・ガラバーニュの旅』  
954/MI 13

オマル・ハイヤーム作；小川亮作訳  
『ルバイヤート』  
081/I 95/R453

トーマス・ヤンソン [著]；山室静訳  
『ムーミン谷の冬』  
949.83/J 23

## いくつかの本の思い出

*Muchos años después, frente al pelotón de fusilamiento, el coronel Aureliano Buendía había de recordar aquella tarde remota en que su padre lo llevó a conocer el hielo.*

「長い歳月が流れて銃殺隊の前に立つはめになったとき、恐らくアウレリアノ・ブエンディア大佐は、父親のお供をして初めて氷というものを見た、あの遠い日の午後を思いだしたにちがいない。」

これはガブリエル・ガルシア＝マルケス『百年の孤独』のあまりにも有名な冒頭文です。私はこの数行から彼の世界に引き込まれて以来、何度読み返したか分かりません。蜃気楼の村マコンドの創建から滅亡までの100年間余が描かれていくのですが、主要家族ブエンディア家7世代にわたっての物語は、果てしない虚無感と変わりゆく世界の大惨事が交錯していく様が展開され、幻想世界と日常世界が絡みあう「マジックリアリズム」と言われる文学ジャンルの名作です。

イタロ・カルヴィーノもマジックリアリズムの作家と言われますが、彼が創り出す奇妙で幻想的な世界は、彼特有のユーモアが軽快なトーンで描かれています。最も好きな作品を挙げれば『木のぼり男爵』でしょうか。少年期特有の「憤懣」から木上での生活を始め、二度と降りないと誓うと、死を迎えるまでその思いを貫いたコジモ男爵の極めて奇妙なファンタジーのようで、実は自由と精神的自立を描いた作品です。

カルヴィーノのもう一作品『見えない都市』は、私が長年枕元に置いている本です。フビライ・ハンを前に、マルコ・ポーロが旅した都市について語っていくのですが、不思議なことにそれぞれの都市は女性名を持ち、人間性のある一面を表すというのです。小説？短編小説集、詩集？それとも哲学書？どのジャンルにも分類できないユニークな作品です。

カルヴィーノの『見えない都市』やガルシア＝マルケスの架空の村マコンドを彷彿とさせる『M/Tと森のフシギの物語』では、大江健三郎が故郷の村の歴史と神話を絡ませ、特別な世界を創りあげました。世間から隔離された四国の奥地に、女性族長率いる逃亡者、反逆者ら反体制思想の民達で構成される村が、不思議な生き物達に囲まれ存在します。彼の家族についての内省と共に、日本の史実が反映されています。

✽

「あすの日が誰にいったい保証出来よう？  
哀れな胸を今この時こそたのしくしよう。  
月の君よ、さあ、月の下で酒をのもう、  
われらは行くし、月はかぎりなくめぐって来よう！」  
(オマル・ハイヤーム作『ルバイヤート』112)

ボードレール、ランボー、ヴィヨン、一茶、芭蕉、カヴァフィス、ヨーゼフ・アティツラ、サンドラールなどなど……。私の幼少期は、父が好んで集めた詩集に囲まれていました。私は、彼が小説とは異なり、詩集を私と共有しようとしないうちに幼いながら疑問を持っていましたが、父がなぜそうしていたかを理解するまでには、長い年月が必要でした。

詩は、本質的に共有したり、簡単に軽く解説したり、分析したりすることのできないものであり、個人として深く身体に染み込ませていく特別なものである、と後に理解しました。いわば、小説は作家個人と全ての読者との対話であり、詩は詩人とそれぞれの読者との個人的な対話です。

私が最初に詩を愉しむようになったのは、ランボーの愛人でもあったポール・ヴェルレーヌの作品でした。彼は繊細でありながら、暴力的で無謀な複雑怪奇な人物でした。若き日に愛欲に溺れ、老境にはアブサンに溺れ、まさに「呪われた詩人」の典型のような憎むべき「変人」でありながら、その一方では愛される魅力に満ちた詩人として崇拜されています。

アンリ・ミショーの『幻想旅行記：グランド・ガラバーニュの旅』は、ガラバーニュ族の奇妙な風習を描いた日記のような散文詩集です。私は日本に住む以前、この作品を楽しみファンタジーと理解していましたが、移住してから読むとなぜか時折、ガラバーニュ諸国とその奇妙な風習の世界に迷い込んでいるような不思議な浮遊感を覚えます。

オマル・ハイヤームもおすすめします。彼は、数学者、天文学者、哲学者でもあり、12世紀ペルシャの最も偉大な詩人です。短い四行詩『ルバイヤート』で、愛、美、ワイン、そして人間が生きていく中での限りない困難についての詩を遺しました。

✽

最後にとっておきの『ムーミン谷の冬』。この「おすすめ図書の紹介」にムーミンが登場することに驚かれるでしょう。それは、関連商品などの販売目的のためにカラフルで可愛いマスコットとして登場する以前に、トーマス・ヤンソンという唯一無二の作家が創り上げたキャラクターであることを忘れてはならないかもしれません。児童小説『ムーミン谷の冬』は、ムーミンが北極の冬の終わりと深淵な夜に出会う物語です。この作品は、何か遠く暖かな懐かしさ、悲しみや孤独、友情、信頼、あらゆる心の側面が描かれ、児童小説が作家としての価値を損なうものではない、と理解させられる特別な作品だと考えています。

## 知っていますか?こんなサービス

### 学生購入希望 (リクエスト)

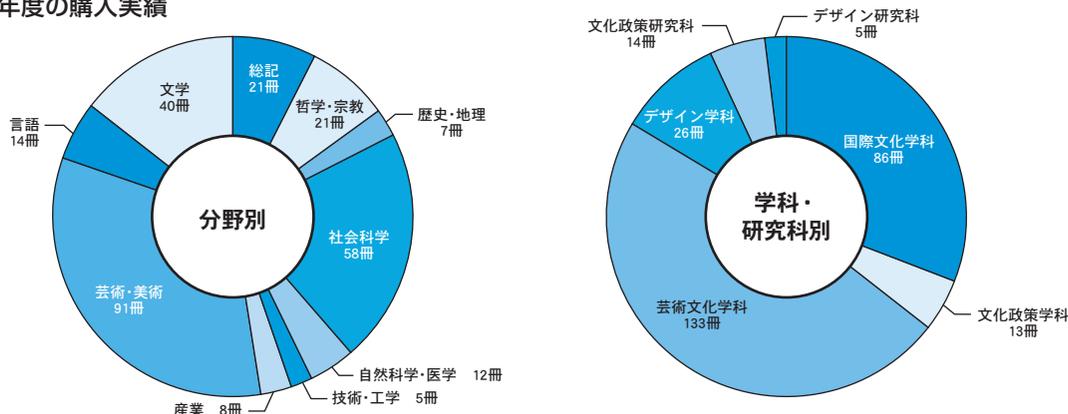
図書館・情報センターを利用して、「読みたい本があるけど所蔵されていない」「こんな本を置いてほしい」「卒業制作に必要な本があるけど、個人では高価で買えない」などといったことはありませんか?

そのような時は、学生購入希望(リクエスト)を活用してください。学生購入希望を申込するときは、カウンター前の掲示板にある「購入希望図書申込書(3枚綴)」に必要事項(図書の情報など)を記入して、カウンターに提出してください。

#### ★学生購入希望 (リクエスト) について

- ・学生購入希望は、本学の学生を対象とするサービスです。
  - ・2024年度は6～7ページ掲載の277冊を受け入れました。
  - ・絶版や品切れとなっている図書、洋書、CDやDVDなどの視聴覚資料も申込可能ですが、入手できないこともあります。
  - ・雑誌・漫画類および1点が5万円以上の高額図書を除きます。
  - ・学習や調査研究に無関係の個人的な利用目的は対象外です。
  - ・一度に多数の購入希望を申し込むのはご遠慮ください。
- その他、学生購入希望で不明なことがありましたら、カウンターでご相談ください。

#### ■2024年度の購入実績



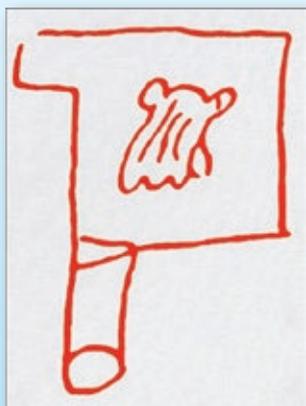
### 学生購入希望 (リクエスト) で購入した図書のご紹介

#### No ghost just a shell

Pierre Huyghe & Philippe Parreno

Verlag der Buchhandlung Walther König, c2003

[702.07/ H 98]



“No ghost just a shell” は、アーティストのフィリップ・パレーノとピエール・ユイグが2000年代初頭に手がけたプロジェクトの記録集です。日本のキャラクター制作会社から約4万6千円で著作権を取得した、名前も物語も持たない「モブキャラ」の少女に、複数のアーティストが新たな物語や役割を与えていく過程が収録されています。

主役となるのは、青い髪に尖った耳、昆虫のような大きな目をもつ少女「アンリー」。パレーノとユイグによって3Dモデル化された彼女は、パレーノの作品《Anywhere out of the world》(2000)の中で、自らを商品IDと名前しか持たない空っぽの存在——“No ghost just a shell” (幽霊ではなく、ただの殻だと語ります。

その後、二人はさまざまな作家がアンリーに新たな物語や声を与える環境を整え、アンリーは複数の作品の中で描かれるうち、まるで自律したキャラクターのように振る舞い始めます。最終的に、彼女の著作権は“アンリー自身”に譲渡され、以後どこにも登場しないものとされました。これは、モブキャラとして消費される生から彼女を解放するプロセスでもありました。

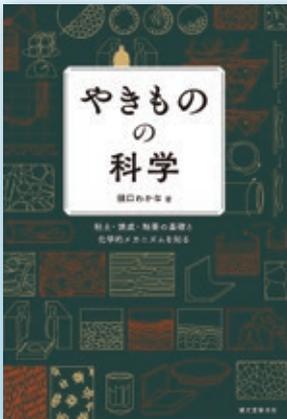
このプロジェクトは、20年経った現在でもなお私たちに、キャラクターと私たちがどのような関係にあるかを問いかけてきます。私たちはキャラクターというイメージの消費者でありながら、彼ら/彼女らを定められた物語の枠から解放し、延命することが可能な存在でもあると言えます。「推し活」や「二次創作」が市場の中で大きな役割を果たし、無数のVTuberやアバターが並ぶ現代日本のネット文化と照らし合わせると、そうしたキャラクターと私たちの奇妙な関係性がごく自然で揺るぎないものとなっていることに気付かされます。

本書は、日本の大学図書館ではごく少数の館にしか所蔵されていない貴重な資料です。静岡文化芸術大学図書館では本書を所蔵しています。ぜひ手に取って、アンリーの一生に想いを馳せてみてください。

【文化政策学部 芸術文化学科 2年 吉澤 英汰】

『やきものの科学：  
粘土・焼成・釉薬の基礎と  
化学的メカニズムを知る』

樋口わかな著  
誠文堂新光社，2021.5  
[751/H 56]



私は、陶芸の知識を得るため、この本の購入を希望しました。私は陶芸に興味があり、陶芸の本を読みたいと考えていました。図書館にある本を読んでみたものの、難しくほとんど理解できませんでした。そこで見つけたのがこの本です。内容についてはよく知りませんでしたが、まず、『やきものの科学』というタイトルに惹かれたのです。私のような科学好きな人間にとって、事象の本質を科学的に理解するという事は、とても楽しいことです。そのようなことが書かれているだろうと想像していました。実際にこの本は、まさにその要望を叶えてくれる本でした。

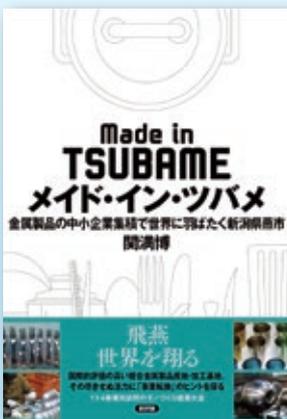
この本が素晴らしいと思ったのは、ページのデザインのよさと、説明の進め方、説明の分かりやすさです。陶芸の本は、古くて初心者には分かりにくい本ばかりですが、この本の説明は、ほかの本に比べて分かりやすいと思います。まず、土とは何であるのかから始まり、土がどのようにできて、どのような性質を持つのか。そして土の分子構造など。このように、土についての概要に触れ、その後、陶芸の専門的な知識にまで踏み込んでいきます。どのような化学反応が起きて、どのような構造で原子、分子がつながるのか、それはどんな性質を持つのか、などというように、分子レベルでの説明までもされています。イラストも入っていて、シンプルながらもとても分かりやすくできています。文字やイラストに使われている色も気に入っています。

この本は、陶芸に興味がない人にとっては面白くはないかもしれませんが、しかし、科学が好きな人や、陶芸に関心がある人にとっては、いろいろな発見がある本だと思います。何の分野であれ、科学的な仕組みを知ることは楽しいことですし、自分が今まで行ってきたことを科学的視点で見してみるのも面白いと思います。私も今後、この本を読みながら、材料の調合をしたいと考えています。

【デザイン学部 デザイン学科 3年 山下 晃弘】

『メイド・イン・ツバメ：  
金属製品の中小企業集積で  
世界に羽ばたく新潟県燕市』

関満博著  
新評論，2019.10  
[581.02141/Se 24]



『メイド・イン・ツバメ：金属製品の中小企業集積で世界に羽ばたく新潟県燕市』は、新潟県燕市の金属加工産業の現状を詳細に描いた一冊です。燕市はスプーンやフォークなどのカトラリーを中心とした金属製品の産地として全国的に知られており、400年をかけて発展してきた歴史や背景、直面する課題や今後の可能性を具体的な企業事例を交えながら伝えています。

著者の関満博氏は経済学者でありながら、現地調査を重視し、燕市を繰り返し訪問して企業経営者や職人との対話を重ねています。そのため、本書には統計や理論だけではなく、現場に根ざしたリアルな情報が詰まっています。中小企業が抱える課題、例えば市場縮小や後継者不足といった問題に対して、地域企業がそれぞれ工夫を凝らし、さらには地域内での協力や分業によって乗り越えようとする具体的な取り組みが詳細に紹介されています。

特に印象的だったのは、多くの企業が国内市場の限界を感じる中で、海外市場進出やブランド化、製品の高付加価値化に積極的に取り組んでいる点です。その過程では、伝統的な技術の継承に加えて、製品のデザイン性やマーケティング、情報発信力といった要素が重要になっていることが示されています。

私は大学院で、デザインを活用して燕三条地域の産業魅力を広く発信する研究を行っています。また燕市は私自身が生まれ育った土地でもあり、地域の産業や職人文化をこれまで身近に感じてきました。本書を通じて、自分がこれまで注目していた技術力という側面だけでなく、地域ブランド形成やマーケティング戦略、デザインなど多面的な視点から地域産業の活性化を考える必要性に改めて気付かされました。

本書は、地域産業やものづくりに関心がある人にとって、具体的で実践的なヒントを与えてくれる内容となっています。また、私自身にとっても地元燕市の産業を改めて深く理解し、今後の研究活動やデザインを通じて地域産業を支援するための大きな指針を与えてくれました。燕三条地域に限らず、日本各地の産業の将来を考える上で、非常に参考になる一冊です。

【大学院 デザイン研究科 2年 鈴木 志歩】

受入図書一覧

請求記号	資料名	請求記号	資料名
002.7/P 23	勉強が面白くなる瞬間：読んだらすぐ勉強したくなる究極の勉強法	361.81/L 49	近代日本の上流階級：華族のエスノグラフィ
002/I 33	私たちはどこから来て、どこへ行くのか？ (NHK出版新書:431. おとなの教養:[1])	361.98/Ka 96	コミュニティ・デザイン新論
002/Ma 14	Learned antiquity (Groningen studies in cultural change:v. 5)	361/G 42	Sociology 9th ed : pb
007.35/O 42	VTubeer学	366/Ku 67	「働けない」をとことん考えてみた。
007.35/Y 38	VTubeerの哲学	367.21/Ku 73	明治のお嬢さま (角川選書:441)
007.609/H 56	動かして学ぶ!はじめてのテキストマイニング (KH Coder official book:2)	367.21/O 66	藤原セレクション 女と男の時空 日本女性史再考 [1巻~13巻]
018.09/O 73	アーカイブズとアーキビスト：記録を守り伝える担い手たち (阪大リーブル:076)	367.9/Ta 33	恋愛社会学：多様化する親密な関係に接近する
019/Mi 76	なぜ働いていると本が読めなくなるのか (集英社新書:1212B)	369.26/L 51	在日外国人の高齢者保健福祉に関する研究
023.1/N 71	日本出版史料：制度・実態・人 [1巻~10巻]	369.28/A 98	当事者研究の誕生
060.1/Se 69/2018	専門情報機関総覧 2018	369.7/O 81	地域の寄り合い所また明日：新しい時代の共生のカタチ
081/lj 1/204	ものの始まり50話：文明の源をさぐる (岩波ジュニア新書:204)	371.6/L 67	探求の共同体：考えるための教室
093.86154/I 54	川名のシンウチ行事：国選無形民俗文化財記録保存報告	375.1/C 42	イラスト版3ステップで早わかり!主体的・対話的で深い学び実現の指導法100
104/E 29	すべてはつねに別のものである：「身体-戦争機械」論	375.2/Z 3	「競争と抑圧」の教室を変える：子どもと共に生きる教師 (子ども集団づくり実践シリーズ)
112/Ma 65	空間のために	375.82/Mi 62	「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現する国語授業モデル
116/N 95	頭のいい人だけが解ける論理的思考問題	375.83/Ko 12	問題解決型国語学習を実現する「見方・考え方」スイッチ発問：中学校国語
133.3/D 55	経験論と主体性：ヒュームにおける人間的な自然についての試論	375.85/Sa 85	国語科の学びを深めるアクティブ・リーディング
135.5/G 91	分裂分析的地図作成法	375.853/Ki 22	主体的・対話的で深い学びを実現する中学校国語教科書教材の開発モデル
140.7/Mi 86	あなたは当事者ではない：「当事者」をめぐる質的心理学研究	377.15/I 12	課題解決型授業への挑戦：プロジェクト・ベースド・ラーニングの実践と評価
146.1/F 27	後期ラカン入門：ラカンの主体について	377/C 66/2024	まるわかり!大学編入データブック：2024-2025
146.1/G 91	精神分析と横断性：制度分析の試み：新装版 (叢書・ユニベルシタス:435)	379.3/Ta 84	若者の居場所と参加：ユースワークが築く新たな社会
146.1/H 89	精神分析と昇華：天才論から喪の作業へ	383.1/R 98	イラストと史料で見る中国の服飾史入門：古代から近現代まで
146.1/L 12	ゼロから始めるジャック・ラカン：増補改訂版 (ちくま文庫:[か86-1])	387/H 42	医療民俗学序説：日本人は厄災とどう向き合ってきたか
146.1/Ma 81	享楽社会論：現代ラカン派の展開	389/C 25	食人の形而上学：ポスト構造主義的人類学への道
159.4/F 39	仕事に追われない仕事術：マニャーナの法則：完全版	389/St 8	部分的つながり (人類学の転回叢書)
159.4/I 11	「後回し」にしない技術：「すぐやる人」になる20の方法	401/Si 6	個性化の哲学：形相と情報の概念を手がかりに：新装版 (叢書・ユニベルシタス:1083)
159.4/To 27	仕事ができる人の最高の時間術 (Asuka business & language books)	488.66/U 32	ペンギンは歴史にもクチバシをはさむ 増補新版
159.7/Ko 24	さみしい夜にはペンを持って	490.14/F 44	傷ついた物語の語り手：身体・病い・倫理
159/A 37	機嫌のデザイン：まわりに左右されないシンプルな考え方	493.7/G 91	精神病院と社会のはざままで：分析的实践と社会的実践の交差点
159/E 66	RANGE：知識の「幅」が最強の武器になる	493.73/Sa 47	お片づけセラピー：ADHD/ADDのためのハッピーサバイバル法
159/Kn 1	時間術大全：人生が本当に変わる「87の時間ワザ」	493.74/Mi 75	環状島=トラウマの地政学：新装版
159/L 13	「弱いまま」で働く：やさしさから始める小さなリーダーシップ論	498/J 98	Putting a name to it: diagnosis in contemporary society Second edition : pbk
175.8/H 97	伊勢神宮の考古学	499.02/Su 49	薬の社会史：日本最古の売薬外郎・透頂香 [第1巻~第5巻]
175.8/Y 58	伊勢神宮の衣食住 (角川文庫:15117)	518.84/Sp 3	ウォークアブルシティ入門：10のステップでつくる歩きたくなるまちなか
210.5/F 74	近世日記の世界 (史料で読み解く日本史:4)	518.84/V 75	フランスのウォークアブルシティ：歩きたくなる都市のデザイン
210.5/Ko 61	禍いの大衆文化：天災・疫病・怪異	525.1/Sa 38	建築スタディ発想の方法：デザインを決めた50人の模型・ドローイング
230.4/A 32	神に問う：中世における秩序・正義・神判	581.02141/Se 24	メイド・イン・ツバメ：金属製品の中小企業集積で世界に羽ばたく新潟県燕市
234.075/I 72	過去の克服：ヒトラー後のドイツ 新装復刊	594.9/Ka 54	野菜と果物のキャンドル
289.1/Sh 49	お好さんの生活史：ある庶民の戦中・戦後	613.43/G 72	イラスト基本からわかる堆肥の作り方・使い方
289.1/To 36	徳川幹子：わたしはロビンソン・クルーソー (人間の記録:90)	629.21/Y 46	庭のかたちが生まれるとき：庭園の詩学と庭師の知恵
293.333/U 95	不思議の国のロンドン	629/Ts 29	The semiotic field of the garden : personal culture and collective culture : pbk
301/Sa 25	公共哲学入門：自由と複数性のある社会のために (NHKブックス:1278)	657.82/Ts 12	マツタケ：不確定な時代を生きる術
302.224/Ta 25/1	東アジアの市民社会と民主化：日本、台湾、韓国にみる (台湾研究叢書:1)	675.18/P 12/2024	Package design index :パッケージand 2024
302.39/Sz	踊る熊たち：冷戦後の体制転換にもがく人々	675.18/P 61	定期便サービスのデザイン：進化するライフスタイル
304/N 14	言葉を手がかりに：見ること、伝えること、考えること	675/Se 51	推し活経済：新しいマーケティングのかたち
311.8/A 68/1	反ユダヤ主義 新版 (全体主義の起原:1)	699.64/Ma 59	日本の初期テレビドキュメンタリー史
311.8/A 68/2	帝国主義 新版 (全体主義の起原:2)	701.1/C 42	センスの哲学
311.8/A 68/3	全体主義 新版 (全体主義の起原:3)	701.1/So 55	実在のノスタルジー：スーリオ美学の根本問題
313.1/I 96	分権と連邦制	701.3/B 79	アートワーカーズ：制作と労働をめぐる芸術家たちの社会実践
318.6/N 71	新データで読む地域再生：「人が集まる県・市町村」はどこが違うのか	701.3/E 79	The matrixial borderspace : pb (Theory out of bounds:v. 28)
319.2101/C 65	日韓文化交流の現代史 (早稲田大学エウブラクシス叢書:006)	701.3/G 33	Art and agency : an anthropological theory : pbk
327.93/B 25	中世の神判：火審・水審・決闘	701.3/Ma 24	クリエイティブであれ：新しい文化産業とジェンダー
334.41/Ta 33	ペルーから日本へのデカセギ30年史	701.3/Si 2	Seth Siegelau : beyond conceptual art
335.13/Ki 16/24	企業家研究 第24号	701.3/St 6	Concerning consequences : studies in art, destruction, and trauma
336.1/R 85	多角化戦略と経済成果	701.3/Su 21	ヴァナキュラー・アートの民俗学
336.1/U 63	解像度を上げる：曖昧な思考を明晰にする「深さ・広さ・構造・時間」の4視点と行動法	701.4/O 38	表現する「私」はどのように生まれるのか：精神分析と現代美術の語りから
336.5/H 76/2024-2	秘書検定2級実問題集 2024年度版	701.4/P 77	After-affects after-images : pbk. (Rethinking art's histories)
336.55/Se 47	ペーパーレスオフィスの神話：なぜオフィスは紙であふれているのか?	702.07/B 67	関係性の美学
360.4/A 53	武器としての土着思考	702.07/H 98	No ghost just a shell
361.3/I 32	ポジショナリティ：射程と社会学的系譜	702.07/P 25	Philippe Parreno - Synchronicity
361.5/Ko 56	日本とフランスのカワイイ文化論	702.07/Sa 62	Karin Sander, Skulptur
361.5/Ta 84	オタク文化とフェミニズム	702.07/Y 24	ホー・ツーエン：ヴォイス・オブ・ヴォイド-虚無の声：YCAMとのコラボレーション
361.78/O 68	ガールズ・アーバン・スタディーズ：「女子」たちの遊ぶ・つながる・生き抜く	702.15/Mi 84	虫めづる日本の人々

請求記号	資料名	請求記号	資料名
702.33/R 29	18世紀イギリスのアカデミズム藝術思想：ジョシュア・レノルズ卿の『講話集』	779.17/Sa 37	昭和ストリップ紀行
704/A 63	死ななために	779.9/N 87	女芸人の壁
704/L 63	Selected Maria Lind writing pbk.	783.7/Mi 96	プロ野球「熱狂」のメカニズム：ファン行動とマネジメントの計算社会科学
707/Ko 61	アートベース・リサーチの可能性：制作・研究・教育をつなぐ	783.7/N 32	プロ野球「経営」全史：球団オーナー55社の興亡
708.7/U 73	クリスタルパレス：梅津庸一	788.5/Ke 21/1	文明開化に馬券は舞う：日本競馬の誕生（競馬の社会史:1）
709.1/H 32	アートゾーンデザイン：地域価値創造戦略	788.5/N 71	日本競馬史 [第1巻～第6巻]
709.1/H 54	継承される地域文化：災害復興から社会創発へ	807/C 85	Preventing reading difficulties in young children : cloth
721.4/I 89	伊藤若冲製動植絵研究：描かれた形態の相似性と非同同性について	807/V 12	Reading and learning to read 10th edition pbk.
721.5/W 46	渡辺始興特輯（大和文華:第110号）	810.1/Ka 31	言霊の思想
723.33/G 15	The paintings of Thomas Gainsborough : pbk	810.7/F 72	日本語を教えるための教材研究入門
723.33/G 15	Thomas Gainsborough : the portraits, fancy pictures and copies after old masters [v. 1, v. 2]	810.7/Ma 32	技能実習生と日本語教育
723.33/Sa 85	ファンシー・ピクチャーのゆくえ：英国における「かわいい」美術の誕生と展開	810.7/Mu 59	日本語学習は本当に必要か：多様な現場の葛藤とことばの教育
723.35/Ma 72	マティス：「装飾」が芸術をひらく	810.7/N 71/11	対話することばの市民（日本語教育学研究:11）
723.35/Ma 72	マティス画家のノート：新装版	810.7/Y 77	日本語授業教案の作り方：今すぐ役立つ！（日本語教師ハンドブック）
723.358/V 28	Van Dyck : a complete catalogue of the paintings : cl	816/Mi 76	推しの素晴らしさを語りたいのに「やばい!」しかでてこない
723.38/Ka 51	見えないものを見る：カンディンスキー論：新装版（叢書・ユニベルシタス:627）	816/N 37	日本語笑いの技法辞典
725/L 37	モルフォ人体デッサン：新装コデックス版	818.63/O 73	上方ことばの今昔（上方文庫:13. 上方の文化）
726.5/W 47	Style : 1979-2018 : 男のファッションはボクが描いてきた	837.7/P 37/2	The adventures of Huckleberry Finn（Penguin readers:level 2）
727.8/G 95	日本のトレードマークとロゴタイプ：資料集 新装復刻版	837.7/Y 73/2	Roman holiday（洋販ラダーシリーズ:Level 2（1300 - word））
727.8/N 71/2024	日本タイポグラフィ年鑑 2024	869.07/H 15	継承ポルトガル語の世界：地域とつながり異文化間を生きる力を育む
740.235/C 23	カルティエ=ブレッソン：二十世紀写真の言説空間	901.01/O 26	批評理論を学ぶ人のために
748/C 23	Images à la sauvette [Reproduction en fac-similé]	901.27/I 24	「感情」から書く脚本術：心を奪って釘づけにする物語の書き方
751.1/Sa 67	楽茶碗の四〇〇年・伝統と創造	903.3/Ka 39	物語要素事典
751.4/To 46	ハニワと土偶の近代	910.268/Mi 89	『注文の多い料理店』考：イーハトヴからの風信（五柳叢書:45）
751/H 56	やきものの科学：粘土・焼成・釉薬の基礎と化学的メカニズムを知る	910.268/Mi 89	イーハトヴ風景学：宮沢賢治の〈場所〉
751/Ta 98	Glazes for the contemporary maker	910.268/Mi 89	宮沢賢治の問題群：感情移入と持続可能社会を巡って
756.13/N 71	彫金と宝石の彫り留め技法（ジュエリー技法講座:5 Design & making）	910.268/Mi 89	宮沢賢治の動物誌：キャラクターを織り上げる
756.3/B 71	ジュエリーのデザインと描き方	910.268/Y 62	保田與重郎を知る
757/Ta 71	失われた創造力：ブルー・ムナーリ、アキッレ・カスティリオーニ、エンツォ・マーリの言葉	911.66/Ki 18	歌詞のサウンドテクスチャー：うたをめぐる音声詞学論考
760.4/L 28	エレベーター・ミュージック：BGMの歴史	912.6/Mi 77	革命伝説・宮本研の劇世界
760.69/N 71/2025	日本の世界の音楽コンクール全ガイド 2025	912.6/Mi 77	革命伝説四部作：宮本研戯曲集
760.69/O 65/14	音楽芸術マネジメント 14（2022）	912.6/N 14	パートタイマー・秋子
760.69/O 65/15	音楽芸術マネジメント 15（2023）	912.7/Ky 1	cocoon
763.9/Sh 35	ボーカロイド音楽の世界 2017（Ele-king books）	913.3/Mi 53	円環の文学：古典×三島由紀夫を「読む」（新典社選書:115）
764.7/J 55	「J-melo」が教えてくれた世界でウケる「日本音楽」	913.6/A 85	六人の嘘つきな大学生
767.8/Ki 31	日韓ポピュラー音楽史：歌謡曲からK-POPの時代まで	913.6/I 93	終焉（角川ホラー文庫:21001, HUI3-17. 現代百物語）
767.8/Ko 12	日韓大衆音楽の社会史：エンカとトロットの土着性と越境性	913.6/Mi 67	母（角川文庫:10038）
767.8/Sa 85	上を向いて歩こう：奇跡の歌をめぐるノンフィクション（小学館文庫:さ24-1）	913.6/O 81	みどりいせき
767.8/Ta 84	K-POPはなぜ世界を熱くするのか	914.6/B 39	言葉への戦術 増補版
767.8/To 24	東方神起見聞録 2版	914.6/Mi 77	宮本研対話コレクション：芝居に正答はない、ただ問うのみ
768.17/O 67	和太鼓のひみつ：鳴るしくみ・歴史から打ち方の基本まで（楽しい調べ学習シリーズ）	914.6/Sh 85	鶴川日記（PHP文芸文庫）
768.17/Ta 22/42	戦後日本に穿たれた太鼓文化の足跡をたどる（たいころうい：第42巻）	916/Ts 41	母ちゃんが書いた：お前たちに遺す私の歴史：新装
769.38/P 46	マリウス・ブティバ自伝（Classics on dance:5）	923.7/L 73/3-1	死神永生 上（三体:3）
769.9/N 16	バレエの見方	923.7/L 73/3-2	死神永生 下（三体:3）
769.9/O 26	バレエ音楽百科	930.27/Mi 28	A.A. Milne : a critical bibliography（Garland reference library of the humanities:vol. 305）
770.4/I 57	演劇ってなんだろう	930.27/Mi 28	Winnie-the-Pooh and The house at Pooh corner : recovering arcadia : pbk
771/N 95	舞台と客席の近接学：ライブを支配する距離の法則	933.7/C 76	幼年期の終わり（光文社古典新訳文庫:[KAク1-1]）
772.1/Su 23/1	戦後演劇の形成と展望 上	933.7/G 74/1	北斎と応為 上
772.1/Su 23/2	戦後演劇の形成と展望 下	933.7/G 74/2	北斎と応為 下
775.4/Mo 65	タカラヅカの謎：300万人を魅了する歌劇団の真実（朝日新書:743）	933.7/H 81/1	内なる宇宙 新版 上（創元SF文庫:[SFホ1-17]）
775.4/N 36	宝塚歌劇は「愛」をどう描いてきたか	933.7/H 81/2	内なる宇宙 新版 下（創元SF文庫:[SFホ1-18]）
775.4/Ta 51	宝塚歌劇110年史（タカラヅカmook）	933.7/Mi 28	The complete Winnie-the-Pooh : containing Winnie-the-Pooh and The House at Pooh corner
778.01/D 55	時間イメーজ（叢書・ユニベルシタス:856. シネマ:2）	950.8/C 76	Connaissance de l'Est/suivi de, L'oiseau noir dans le soleil levant（Collection poésie:103）
778.09/Ki 31	韓国映像コンテンツ産業の成長と国際流通：規制から支援政策へ	953.6/D 96/1	三銃士 改版 上（岩波文庫）
778.21/A 49/1	ジ・アート・オブ・シン・ゴジラ [本冊]	953.6/D 96/2	三銃士 改版 下（岩波文庫）
778.21/A 49/2	ジ・アート・オブ・シン・ゴジラ 別冊付録	953.7/L 56	オペラ座の怪人（光文社古典新訳文庫:[KAKa2-1]）
778.225/Y 19	RRRをめぐる対話：大ヒットのインド映画を読み解く	962.6/A 79/1	戦場のピクニック（アラバール戯曲集:1）
778.235/F 18	声の回帰：映画「ショア」と「証言」の時代（批評空間叢書:8）	962.6/A 79/2	建築家とアッシリアの皇帝（アラバール戯曲集:2）
778.253/N 84	アメリカン・アヴァンギャルド・ムーヴィー	962.6/A 79/3	赤と黒の夜明け（アラバール戯曲集:3）
778.4/L 96	映像クリエイターのための完全独学マニュアル	962.6/A 79/4	大典礼（アラバール戯曲集:4）
778.77/Mo 45	定本アニメーションのギャグ世界		
779.17/H 38	ヌードさん：ストリップ黄金時代		

(計 277 冊)

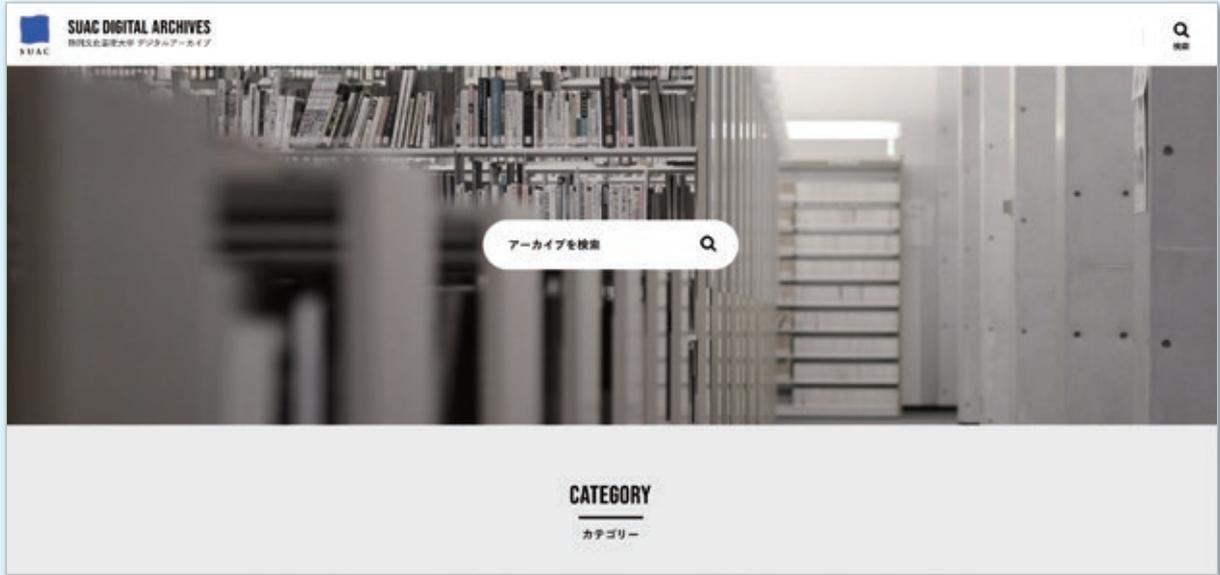
静岡文化芸術大学 デジタルコンテンツのご紹介

静岡文化芸術大学 デジタルアーカイブ SUAC DIGITAL ARCHIVES

<https://www.suac.ac.jp/archives/>

■本学の資料や刊行物のアーカイブ

本学では、本学の資料や刊行物、メディアファイルなどをアーカイブ化し、公開するための仕組みとして「静岡文化芸術大学 デジタルアーカイブ」を構築しています。開学以来の歴史、さまざまな出来事やこれまでの取り組みなどに触れることができます。コンテンツは、キーワードやカテゴリ、タグや年代から検索することが可能です。開学前からの通史や本誌バックナンバーも掲載しています。



静岡文化芸術大学 学術リポジトリ SUAC Academic Repository

<https://suac.repo.nii.ac.jp/>

■学術情報・研究成果のアーカイブ

学内の教育・調査研究による学術成果を蓄積・保管し、学内外に公開・発信するための仕組みとして「静岡文化芸術大学 学術リポジトリ」を構築しています。本学研究紀要の学術論文や、特別研究の成果、イベントやシンポジウムの活動報告、本学大学院研究科の修士論文・修士制作などを掲載しています。昨年、新たなコンテンツとして「静岡文化芸術大学ワーキング・ペーパー」を公開しました。

